

<テーマ> IoT*を活用して自分や家族の暮らしを快適にするサービス

※IoTとは、様々なモノに通信機能を持たせ、インターネットに接続したり、相互通信により自動制御・遠隔計測などを行うこと。

■企画タイトル

下敷きメモリある (下敷きをIoT化)

■アピールポイント

もうカメラは必要ありません！！

■企画の説明

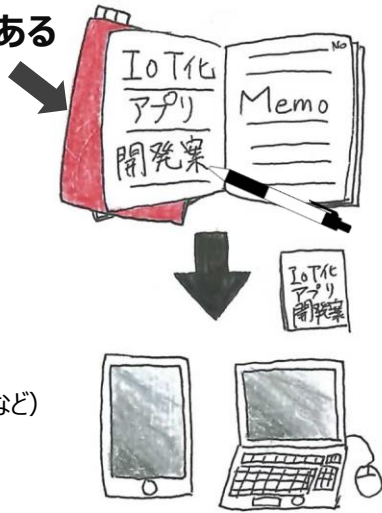
ターゲット	手書きで文字や絵を描き、そのプロセスも結果も残したい人…そんな人にオススメ！
考え方	紙の下に『下敷きメモリある』を敷いて、いつも通りに書(描)だけ。筆圧とその動きが動的に記録され、手書(描)きのプロセスがまるごと保存される、下敷き型の時系列画像保存ツール。『下敷きメモリある』の他に紙とペン・筆を用意するだけで手軽に利用できる、教育やビジネスなど広いシーンで活用できる。

■企画のイメージがわかりやすいよう、一連の流れをイラストや文章で提示してください。(記入例を参考にしてください)

※以下のページは必要あれば増やしても可。ただし企画書ファイルが全部で5MB以内になるよう注意してください。

下敷きメモリある

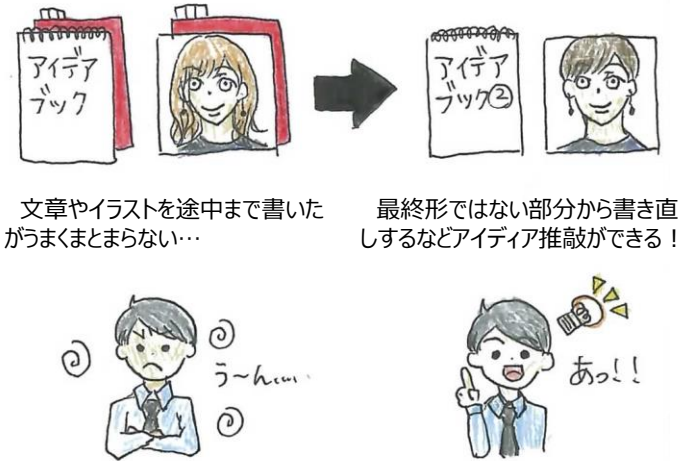
- ・圧力センサ
- ・通信機能



用意するもの

- ・下敷きメモリある
- ・紙 (ノート、メモなど)
- ・筆記具 (鉛筆、ペン、筆など)

Case 1 : アイディアの見直しや再生

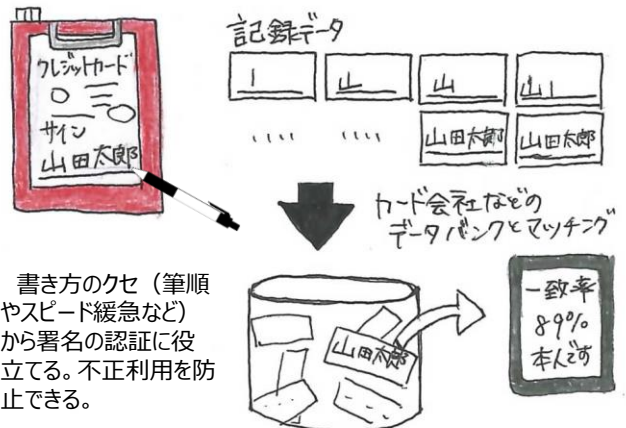


Case 2 : 書道の教育



とめ・はね・はらいなどの筆遣いが動的に記録されるため、最終形だけでなく過程を評価したり学んだりできる。先生の筆遣いを学んだり、生徒の筆遣いを先生が確認することができる。

Case 3 : 署名の判定

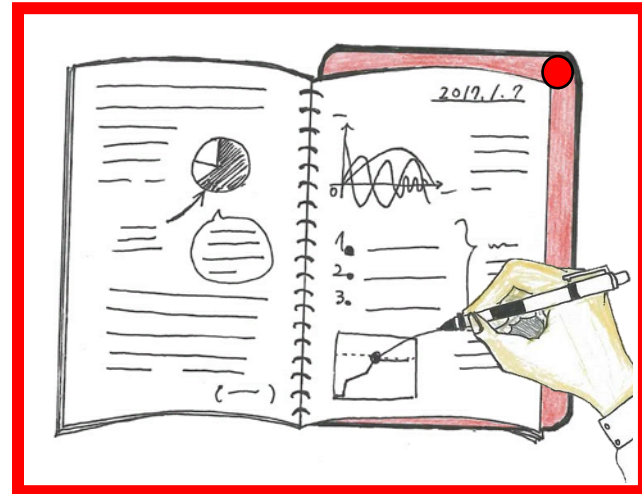
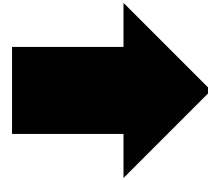


書き方のクセ(筆順やスピード緩急など)から署名の認証に役立てる。不正利用を防止できる。

※一度応募した作品を修正し再応募する場合は、再応募する日付を記入してください。

※企画書内に個人情報に記載しないでください。

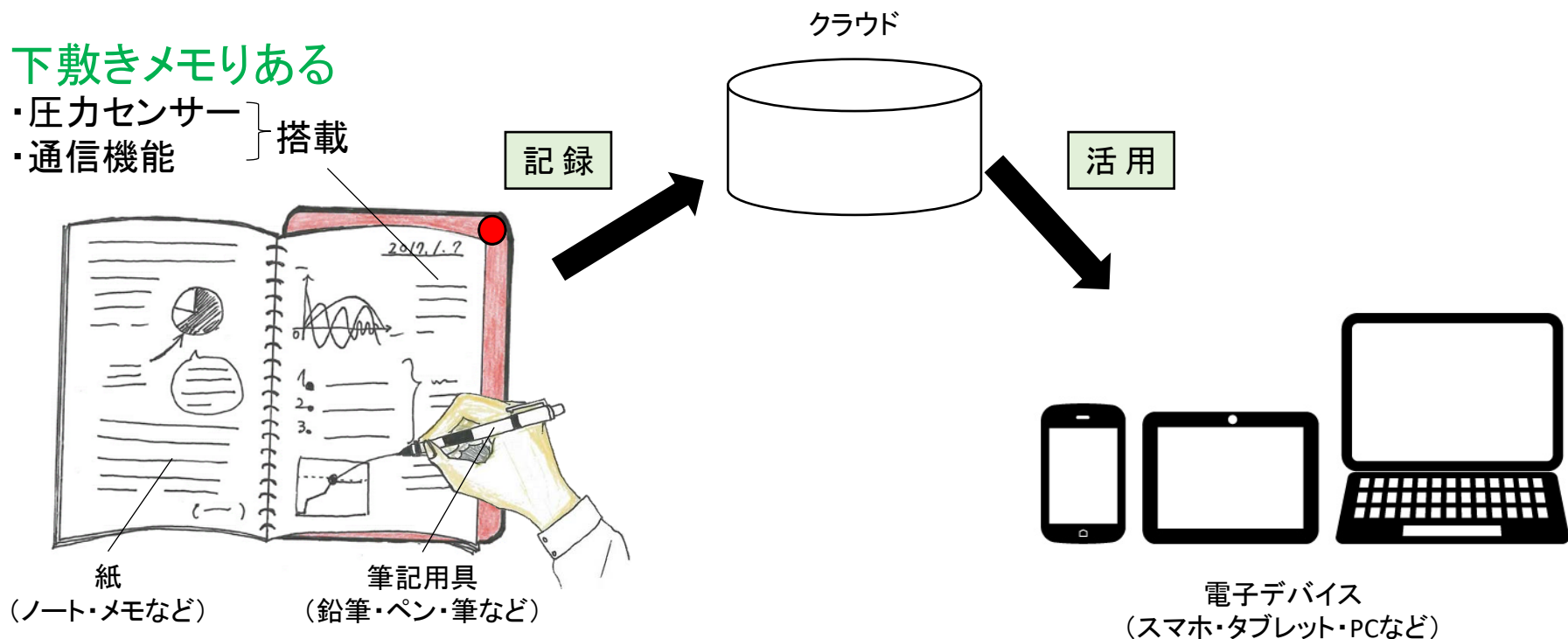
下敷きメモリある (下敷きをIoT化)



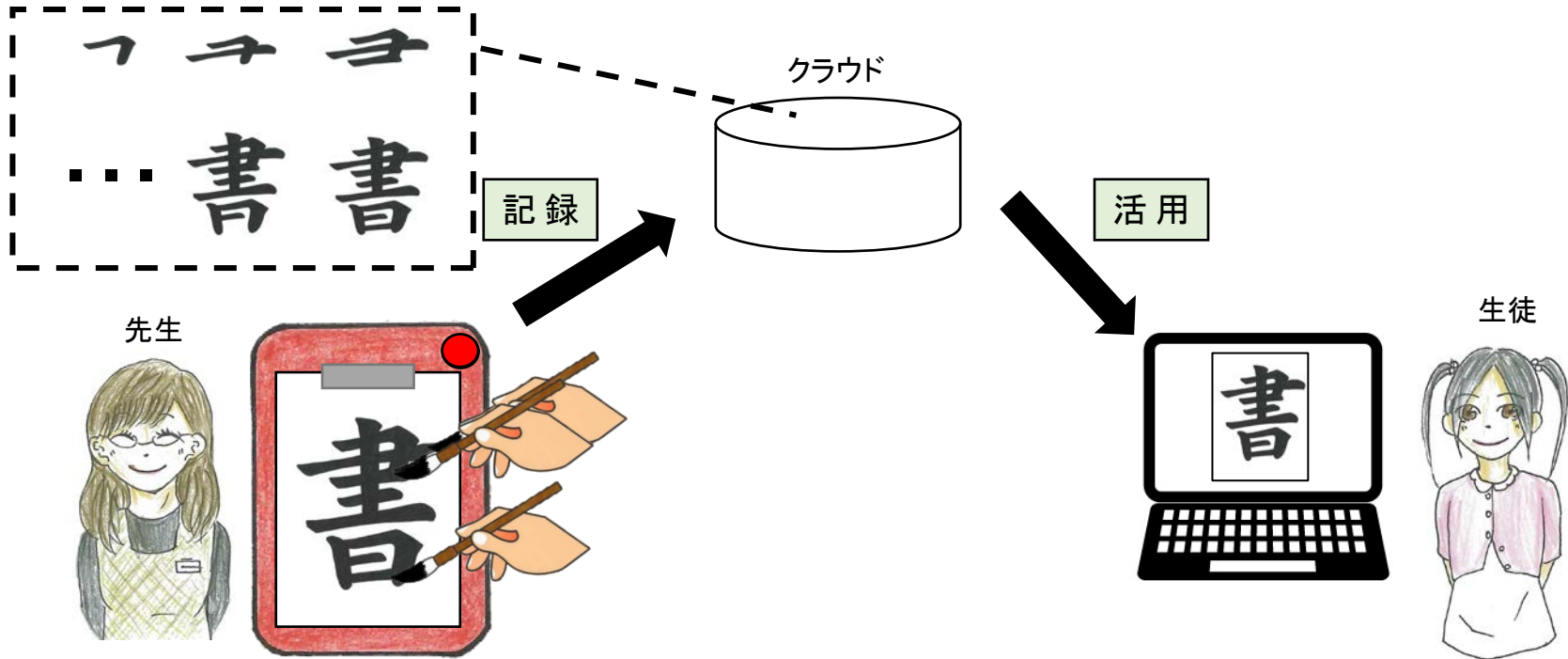
名城大学 理工学部 情報工学科 4年
山口奈々

『下敷きメモリある』とは・・・

- **手書(描)きプロセスが動的にまるごと保存**できる下敷き型の時系列画像記録デバイス。
- プロセスデータをクラウド上に保存して活用。

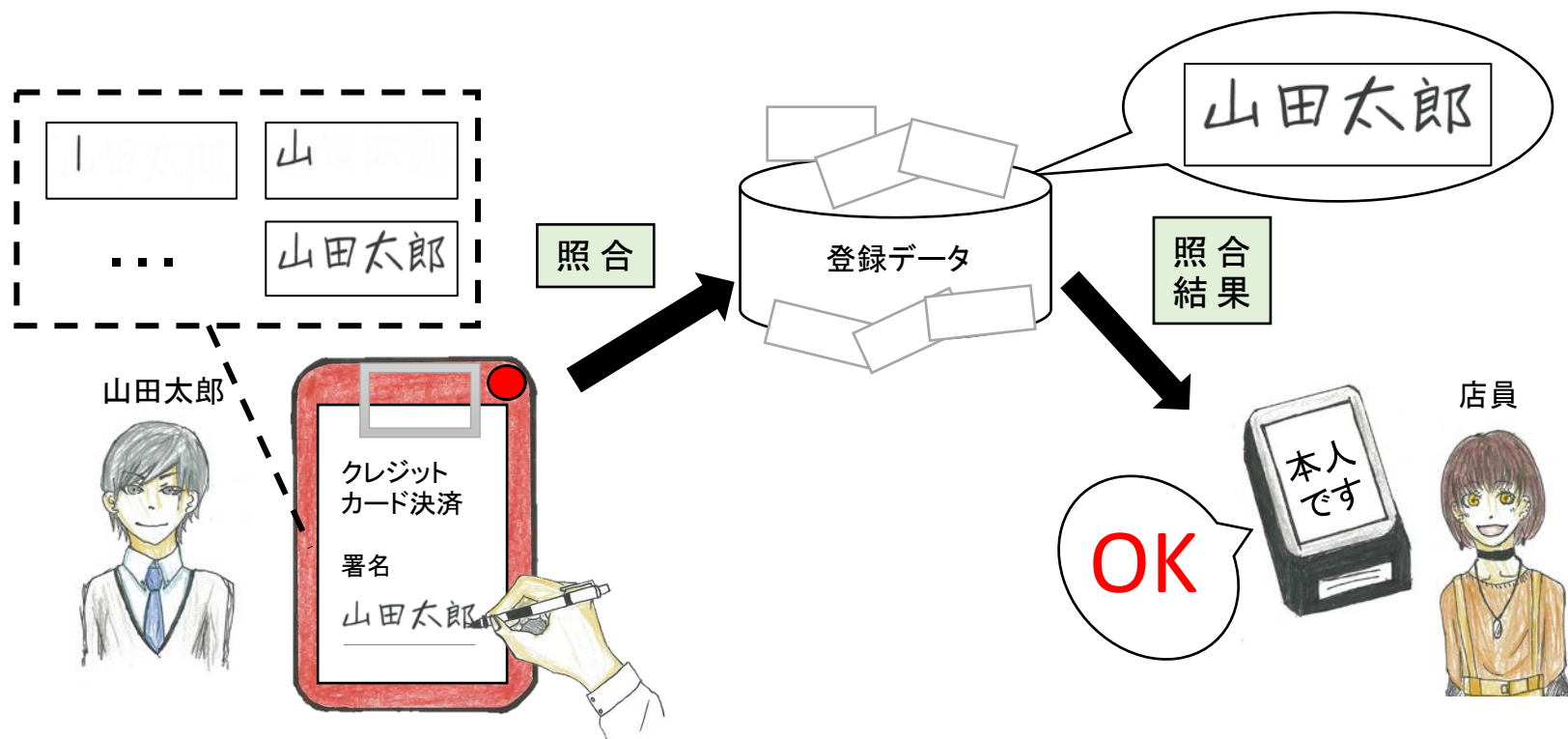


CASE1. 書道教育への活用



- とめ・はね・はらいなどの筆遣いを動的に記録
- 生徒は、先生の筆圧や筆速を手本に練習
- 先生は、生徒の筆圧や筆速をチェック

CASE2. 署名認証への活用



- 書く過程での個人の癖 (筆順・筆速・筆圧など) を照合し、個人認証
- 不正利用を防止

アピールポイント

- **プロセスを動的に保存**することにより、最終形だけの記録や管理ではできないことができるようになる
(例: 書道教育や署名認証など)
- 普通の下敷きと同じ感覚で**手軽に使える**
- 教育、ビジネス、セキュリティなど活用場面が広い